

令和元年度 第3回いちき串木野の歌人 萬造寺齋顕彰

黎明の地 ふるさと短歌大会集



萬造寺齋顕彰の歌碑（羽島崎神社境内）の隣に設置された
大会入賞者の短歌（プレート看板）

主催 羽島史跡顕彰会・いちき串木野市・いちき串木野市教育委員会
主管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
後援 鹿児島県・鹿児島県教育委員会・県文化協会・県歌人協会
市文化協会・南日本新聞社・れいめい羽島協議会

題字 堂元一静氏(書道家)

[主な経歴]

2003 世界水フォーラム動書大賞受賞

2005 日本書道美術院展かなの部 全日本書道連盟賞受賞

2006 " 毎日新聞社賞受賞

その他各賞を受賞し、個展も数多く開く。

目次

黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって	いちき串木野市長	田畑	誠一	1
選評				2
大賞および各部の最優秀賞				8
小学生の部				11
中学生の部				24
高校生の部				37
一般の部				51
留学生の部				57
応募校一覧				59

萬造寺齊顕彰

第三回黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって

いちき串木野市長 田畑 誠一

いちき串木野市は、めざす将来都市像を「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と掲げ、人が輝き、地域が輝く市政の推進に取り組んでいます。また、教育委員会では活力ある教育・文化の振興を図り、「ふるさとを愛し、夢と志をもち、心豊かでたくましい人づくり」を基本目標に掲げ、さまざまな事業を展開してきております。

さて、黎明の地羽島地区では毎年、羽島出身の歌人「萬造寺齊」先生を顕彰するため、萬造寺齊先生の墓前で先生がふるさとを思って詠まれた望郷歌を歌うなど顕彰活動を行ってまいりました。一昨年は先生の没後六十年を迎えるにあたり、地域の有志の皆さんが集まって小説「緑の国へ」も出版されました。

このような中、市といたしましても、近代日本の礎を築く原動力となった薩摩藩英国留学生が命がけで出発した地でもある羽島に薩摩藩英国留学生記念館を建設し、その偉業をたたえとともに、行政と地域が一体となって青少年の育成や地域文化の保存、地域活性化に取り組んでいるところです。

この短歌大会は、こうした歴史的背景のある羽島で生まれ育った歌人「萬造寺齊」先生を顕彰していくとともに、市民が短歌に親しみ、文化の薫るまちづくりの一環として実施しています。今年も、五月二十日から約二ヶ月の間、作品を募集したところ県内各地から三、二〇点もの作品が集まりました。集まった作品は、県歌人協会のご協力の下、厳正なる審査を行い、十月二十日、いちきアクアホール多目的室において三十三名の方々が受賞されたところです。

この大会が、千数百年来の伝統的文化である短歌にこれまで以上に親しむきっかけとなり、ひいては文化の振興につながることを期待して刊行にあたってのあいさつといたします。

選 評

審査委員長(鹿児島県歌人協会会長) 鶴田直樹

いちき串木野市羽島出身の歌人萬造寺齊没後六〇年を顕彰し始まった黎明の地ふるさと短歌大会も、第三回を迎え今年も三一二〇首の短歌作品が寄せられました。作品をお寄せ下さった皆様、ありがとうございます。

かへり来し吾をいたはり抱くもの母が御霊と海のいぶきと

萬造寺齊が生涯愛してやまなかつたこの地に、齊が傾注し続けた短歌の種がまかれ、芽吹きみずみずしい梢を広げています。齊の思いを令和の世までつないでくださった地域の皆様に深く感謝いたします。応募作品は年々内容を濃くし、選考会も熱い議論が繰り広げられました。そして第三回黎明の地ふるさと短歌大会大賞の栄誉を得たのは、市来農芸高校三年 片岡怜愛さんの歌です。

噛みしめる枕の最後の一粒や田を離ること祖父の決めた日

米作りに心血を注ぐ祖父を尊敬し、その道を継ごうと農業高校に進んだ作者でしょう。祖父はまた愛する孫のため、自分の代で米作りをやめることにした。祖先が開墾し守ってきた田を手放す決断をした祖父の思いを、最後の一粒まで思って噛みしめる。日本の稲作農家が抱える痛みを米一粒に込めた巧みな一首です。

この歌に込めた思いを胸に、日本の農業の課題や食糧問題に取り組む人になって欲しいと願います。

次に各部門最優秀賞は次の歌です。

小学生の部 最優秀賞

砂をけり潮風の中かけ抜ける馬に負けじと汗する手づな

市来小学校六年 竹下 颯

串木野の浜競馬は地域の大切な行事で、たくさんの歌が寄せられました。砂丘を、潮風を受けて馬が走り抜ける大きな景色から、手綱の汗に焦点が絞られたことで、人馬一体の臨場感が伝わる歌です。

中学生の部 最優秀賞

指先で静かに打った鍵盤は終わりを告げるとどめの一打

帖佐中学校二年 下村 将太郎

一曲に神経を研ぎ澄ましピアノを奏で、最後の一言に思いを込めた。聴衆のピンと張りつめた空気と素晴らしい演奏が聞こえてきました。最後の一言に視点を集めたことで、一首に緊張感を生みました。

高校生の部 最優秀賞

棒踊りさあさあいやさ掛け声にかすかにまじるじいちゃんの声

神村学園高等部三年 原田 好花

五穀豊穰や無病息災を祈る伝統行事の棒踊り、農民の軍事教練でもあったと言われています。勇壮な掛け声で歌って踊る輪の中の、祖父の姿ではなく声に注目したところでよい歌になりました。

一般の部 最優秀賞

斉詠みし亡母の一首が少女期の吾を近づけた寡黙な父に

日置市 福田 るり子

若くしてお母様を亡くされ、思春期の作者と寡黙なお父様の間に微妙な距離感が生まれていた。そんなとき母を亡くした萬造寺齊の歌に触れ、お父様に心を開かれた繊細な感覚を歌った歌。お父様もまた深い悲しみの中におられたのでしょうか。歌にはそんな悲しみを融かす力がありますね。

留学生の歌から一首ご紹介します。

晋は今お酒のかおりあふれてる太行山の西で栄える

神村学園高等部二年 王 鈺瑄

晋は三国志の舞台にもなった中国の太行山脈と呂梁山脈にはさまれた汾水流域の地方。良い水に恵まれ、酒造りが盛んなようです。王さんはそんな故郷を思い、芳醇な香りに満ちた故郷を歌にして、その豊かさを伝えました。

留学生の皆さんの歌は望郷の歌が多く、故郷を遠く離れて淋しさの中で目標を持ち勉強に励まれているのでしょう。串木野の地で、地域の皆さんともふれあいながら仲間の皆さんとその淋しさを分かち合い、充実した学生生活を過ごされ未来を拓かれることを心よりお祈りします。

以上大賞だけしか紹介できませんでしたが、年々内容を深める歌に感動いたしました。

毎年数多く受賞者を出されている学校は、先生方のご指導の賜物と思います。また遠く離島からの御応募、心より感謝いたします。

また結句が一文字足りない歌が多く、残念ながら特選から漏れた歌があったことを記しておきます。短歌指導の場がありましたら、歌人協会は協力を惜しみません。

この大会で短歌に触れ、素晴らしい歌を作った皆さんが、これからも歌で表現する、思いを伝えあうことを続けていただけたらと願ってやみません。

最後に、いちき串木野市をはじめ大会にかかわって下さった皆様、夏休み前のご多忙の中応募して下さいました各学校の先生方に心より御礼申し上げます。

黎明の地ふるさと短歌大会の概要

一 趣 旨

本市が輩出した歌人、萬造寺齊氏を顕彰するとともに、市の将来都市像「人が輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と教育行政の目標である「ふるさとを愛し 夢と志を持ち 心豊かでたくましい人づくり」の体現を目指します。

二 主催等

- (1)主 催 羽島史跡顕彰会、いちき串木野市、いちき串木野市教育委員会
- (2)主 管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
- (3)後 援 鹿児島県、鹿児島県教育委員会、県文化協会、県歌人協会
市文化協会、南日本新聞社、れいめい羽島協議会

三 応募作品数について

- (1)小学生の部 千五十一首
- (2)中学生の部 千百四十二首
- (3)高校生の部 七百五十首
- (4)一般の部 百七十七首

四 各賞について

【入 賞】

大 賞	全部門の中から1名
最優秀賞	各部門1名（小、中、高、一般の4部門）
優秀賞	各部門1名

市長賞	各部門1名（小、中、高、一般の4部門）
県歌人協会賞	各部門1名
選者賞	各部門1名
教育長賞	各部門1名
南日本新聞社賞	各部門1名
留學生賞	全部門の中から4名
特選	【小 二十一首】 【中 十九首】 【高 二十一首】
入選	【小 三十三首】 【中 二十七首】 【高 三十首】
	【一般 二十二首】
	【一般 二十九首】

五 表彰式について

日時 令和元年十月二十日（日）午後一時三十分から

会場 いちき串木野市アクアホール 多目的室

式順

開会のことば

実行委員会あいさつ……………川口勝則会長

市長あいさつ……………田畑誠一市長

来賓・主催者紹介

表彰

選評……………鶴田直樹審査委員長

閉会のことば

六 選者（予備審査及び本審査）

鶴田 直樹

所属等 県歌人協会会長 にしき江主幹 読売新聞薩摩よみうり文芸歌壇選者

表彰 平成二十七年南日本文化賞受賞（錦江社「にしき江」）
鏑流馬 みどり

所属等 県歌人協会事務局長・県歌人協会青少年短歌育成副委員長 歌誌「黎明」編集委員・運営委員
表彰 平成九年黎明（結社賞）受賞 平成十五年平成の歌会平安神宮賞受賞

黒瀬 圭子

所属等 県歌人協会運営委員 にしき江編集委員

表彰 第七回海南賞

斎藤 むつ子

所属等 県歌人協会会員 山茶花編集委員

表彰 平成三年山茶花賞

作品 歌集「幻化」（平成十年）

寺地 悟

所属等 県歌人協会会員 南船社編集委員 日本歌人クラブ鹿児島県幹事

表彰 平成四年鹿児島新報文学賞 平成三十年第33回国民文化祭文部科学大臣賞

高城 美紀子（一次選者）

所属等 県歌人協会会員 華短歌会編集委員

表彰 昭和五十八年新春文芸（南日本新聞社）一席入選 昭和六十一年新年歌会始佳作入選
昭和六十二年東郷賞（結社賞）受賞

作品 歌集「吾亦紅」（平成七年） 歌集「木の花草の花」（平成十五年）

泊 興子（一次選者）

所属等 県歌人協会運営委員 鹿児島アララギ編集委員

表彰 平成二十六年鹿児島アララギ年度賞

大賞・各部の最優秀賞

【黎明の地ふるさと短歌大会 大賞】

噛みしめる椀の最後の一粒や

田を離ること祖父の決めた日

鹿児島県立市来農芸高等学校三年 片岡 怜愛

【小学生の部 最優秀賞】

砂をけり潮風の中かけ抜ける馬に負けじと汗する手づな

いちき串木野市立市来小学校六年 竹下 颯

【中学生の部 最優秀賞】

指先で静かに打った鍵盤は終わりを告げるとどめの一打

始良市立帖佐中学校二年 下村 将太郎

【高校生の部 最優秀賞】

棒踊りさあさあいやさ掛け声にかすかにまじるじいちゃんの声

神村学園高等部三年 原田 好花

【一般の部 最優秀賞】

斉詠みし亡母の一首が少女期の吾を近づけた寡黙な父に

日置市 福田 るり子

小学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

だいすきなぼくのきびなごきらきらりんぴかぴかぱっしやんなみにはじけた

薩摩川内市立里小学校一年 飯伏 結音

【市長賞】

かかんさいぎしつぎしつとほこがなる黄色いつなをぼくもひつぱる

いちき串木野市立生福小学校三年 小瀬 翔太朗

【県歌人協会賞】

せつぺとべ円じん組んでとびはねる頭もふくもどろんこまみれ

日置市立日吉小学校三年 小松 友結

【選者賞】

夏の川静かにひかるてんめつがぼくのうちわであそんでいる

いちき串木野市立串木野小学校五年 大平 篤志

【教育長賞】

元気でね放流した亀再会はぼくも大人の30年後

日置市立伊作小学校六年 井上 由莉

【南日本新聞社賞】

もうだめだくじけそうな時天あおぎ敵中とつぱにおもいをはせる

日置市立伊集院小学校六年 野村 和花

【特 選】

紅にそまるぼくらのふるさとほまるできれいな金魚のよう

始良市立西始良小学校六年 茶圓 優太

くもさんはわたあめみたいかえるさん雨だあいすきふわふわわ

いちき串木野市立荒川小学校三年 中馬 曹

だんご虫おちばを入れていえづくりごそごそうごいてもぐっていたよ

いちき串木野市立市来小学校二年 富迫 葵

はまべけるてるしまのかぜなびかせてしおのかおりとうまのあしあと

いちき串木野市立市来小学校三年 田中 里奈

ぬめぬめに足を踏み入れ学校田そおつと苗を植え込んでみる

いちき串木野市立市来小学校五年 福山 依己里

かぜがふきはつぱがゆれたそのときにはつぱのみんなはなしはじめ

いちき串木野市立市来小学校六年 内山 美優

なみのおとうみのかおりがいいきもちわかめがゆれておひるねしてる

いちき串木野市立羽島小学校一年 大井 美瑚

きらきらと光りかがやく白浜は魚がとんでしぶきがあがる

いちき串木野市立羽島小学校四年 萩元 誉

おつきなふねちいさなふねもただいまとかえってくるよやまがわみなど

指宿市立山川小学校一年 篠原 匡

かねの音のひびき近づきむねさわぐわざわいばらいメンドン来たる

指宿市立利永小学校五年 田中 蒼磨

黄緑に一面染まる春の朝音を響かす茶つみの機械

鹿屋市立寿北小学校六年 松浦 颯良

よるのうみぎらぎらひかるてんはゆれるひかりにおどるきびなご

薩摩川内市立里小学校一年 榎元 悠真

ポーとなるふねのきてきがきみしそうテープにぎるてはなしたくない

薩摩川内市立里小学校一年 塩田 柚希

どこからも絶えず聞こえる笑い声小さな島の大きな家族

十島村立悪石島小学校六年 片野田 奏

温泉のにおいここままでどいてていますぐにでもはいりたくなる

日置市立伊作小学校六年 山下 颯来

地引きあみこしを落としてひっぱった勝負に出たよわたしの勝ちね

日置市立伊作田小学校四年 蓑田 美空

神の川自然の水の歌声が心にひびく水の合唱

日置市立伊集院小学校六年 酒匂 悠馬

すもう取りおしておしだせ汗流せおたけび上げる妙円寺詣り

日置市立伊集院小学校六年 勢田 悠晴

段々の畑でおしゃべり弾んでく野菜も心もグングン育て

日置市立伊集院小学校六年 宮内 萌音

妙円寺詣りを歩くぼくの背に魂宿る昔の人の

日置市立伊集院小学校六年 矢野 悠太

うたわれるじっしんこうのおもいかないろはうたよみうけつぐわたし

日置市立伊集院北小学校五年 吉丸 華菜

【入 選】

金山ぐら金鉾脈利用してかおり広がる焼酎の思い

いちき串木野市立旭小学校六年 楠生 未来

田うえでねカエルをふんでびっくりだゆっくり足あげかくにんしよう

いちき串木野市立荒川小学校二年 鬼塚 奈々美

じいちゃんのおこめおいしい大ぎとの田んぼでつくるみんなのげん気

いちき串木野市立市来小学校二年 柿森 文丞

じびきあみうんしよえいしよと力をあわせキスチヌたいりようふるさとのめぐみ

いちき串木野市立市来小学校二年 福山 里依咲

海の声しずかにゆれるなみのおと遠くで君がよんでいるかも

いちき串木野市立市来小学校四年 原田 大和

はんや節太^てこ三味線で打ち鳴らしわたしも受けつぐ伝とうだましい

早朝の草刈り機の音せみの声いつのまにかのオーケストラ

なつがきたじいじのすいかおおきいなやさしくみずやりやさしくなでなで

なつになるかぶとむしがうまれるぞかさかさきとげんきにうごく

海水よくはたがなびくよ海の風はたもいつしよに音がくたいだ

くしきの海のかおりにつつまれたばあちゃんのつくるまるいつきあげ

しお風のかおりただよう港町夕日のむこうにぼくらの未来

AIで便利な時代になろうとも熱い想いがつなぐふるさと

れい明の光かがやく魚たちキラキラはねる夕焼けの海

うれしい日くやさしかった日食たくならぶつけあげいつものように

ぼうおどりぼうでたたいてピシバシと声もぶつかるエイヤーサー

光るあせ父の仕事のおてつだいぼくは草取り父はオクラ取り

ダセチツで子宝ねがい地面つくダーセンケポボまち中ひびく

青い海カンパチたちが跳ね上がり海のかなたに黄金光る

いちき串木野市立市来小学校五年 南竹 愛夢

いちき串木野市立市来小学校六年 永山 雪乃

いちき串木野市立川上小学校一年 井内 奏佑

いちき串木野市立川上小学校一年 内田 光星

いちき串木野市立川上小学校二年 福田 悠悟

いちき串木野市立串木野小学校五年 潟山 絢乃

いちき串木野市立串木野小学校五年 北菌 佑真

いちき串木野市立串木野小学校六年 西田 愛茄

いちき串木野市立照島小学校六年 久保 駿也

いちき串木野市立照島小学校六年 萬福 琉生

指宿市立山川小学校五年 下川路 真人

指宿市立山川小学校五年 外菌 和輝

指宿市立利永小学校五年 西元 南行

鹿屋市立寿北小学校六年 佐野 竜清

祖父の家自然が多く楽しいよ夏はくわがた冬は焼きいも

この空が昔しは暗く笑いなし今も残るは兵の泣き声

うずまきのしろいかいがらみつけたよぴかつとひかるうみのたからもの

盆踊りおんじよ手をとりあしをとりこにせへ繋ぐ先人の想い

アオバズクきれいな羽におおわれてみんなの未来見ているのかな

真夜中に砂丘に続く海の道たどっていくとお月様かな

徳重に武者姿の勇ましきチェスト行けと声高らかに

神の川静かな川にひびく音ふとふり向くと鳥の水あび

学びたい敵中突破の精神を今の自分を強い自分に

駅前の義弘公の眼差しが時代を越えて見守る僕らを

いちごがりさむ空の下たのしいよ赤くかがやくほうせきみたい

えんやさとかけ声合わせかまおどりピンクや黄色たすきもゆれる

ぼうおどりたいこおどりにさきおどり八幡神社に祈りがとどく

竹太鼓遠くにひびけ音色たちみんな喜ぶ顔見てる

鹿屋市立寿北小学校六年 西 航世

鹿屋市立寿北小学校六年 宮園 和樹

薩摩川内市立里小学校一年 清藤 圭

十島村立悪石島小学校六年 片野田 楽

日置市立伊作小学校六年 新堀 晃大

日置市立伊作田小学校四年 岩元 真彩

日置市立伊集院小学校六年 植崎 鉄耀

日置市立伊集院小学校六年 茅野 風輝

日置市立伊集院小学校六年 鳥越 瑛樹

日置市立伊集院小学校六年 堀之内 史音

日置市立伊集院北小学校二年 折小野 優友

日置市立日吉小学校四年 上原 七海

日置市立日吉小学校六年 内匠屋 春樹

日置市立和田小学校六年 有馬 由華

【佳作】

ふり向けば山の間、青い海空に負けないさわやかな青

始良市立西始良小学校六年 益森 文菜

しんせんで大きなマグロ赤色にそまるみな笑顔つながらる心

いちき串木野市立旭小学校五年 久保 楓華

いきたくないあめりかこわいよのどかわくのみみずたっぷりぼくのいちくし

いちき串木野市立荒川小学校一年 上園 崇仁

やさいさんおどろくくらいそだってねまちどおしいなしゅうかくのとき

いちき串木野市立荒川小学校二年 山下 愛心

荒川にみんなの願い集まって夢をかなえる七夕の夜

いちき串木野市立荒川小学校六年 栗元 姫來

風にのり聞こえてくるよ荒川の山のおいと清流の声

いちき串木野市立荒川小学校六年 中野 萌禾

夏の海波をけたてる鮪船いせいのいい声海にひびく

いちき串木野市立荒川小学校六年 山下 心愛

おとうさんいつしよに見ようらいねんもホタルのひかりきらめくせかい

いちき串木野市立市来小学校二年 児島 翔瑛

口あけて大きなどうぶつうごいてる七夕おどりにぎやかなまつり

いちき串木野市立市来小学校二年 竹本 敬浩

みんなきてピチピチまぐるのおとおりだいちどたべたらこりやたまららん

いちき串木野市立市来小学校二年 永田 奏

ちりめんはちいさいいけれどえいようがいっぱいあっておいしくニコリ

いちき串木野市立市来小学校二年 橋本 ことみ

なつ休みウシトラつるが大あばれ大はく力のたなばたおどり

いちき串木野市立市来小学校三年 一ノ瀬 紗羽

とかげさんいつになつたらうまれるのもうすぐなつがきちやうでしよ

いちき串木野市立市来小学校三年 植村 光陽

子どもたちあせだくだくだしをひくかないちよかいも天神の山

いちき串木野市立市来小学校三年 大久保 帆乃佳

雨ばかりかえるがなくよがっしょうだかえるがげこげこかえるがびよんと

いちき串木野市立市来小学校三年 土器屋 雅弥

たのしいな海がきれいだおよいでね魚もとれるごはんも食べる

いちき串木野市立市来小学校三年 久松 亮太

まどを開け朝日がのぼる夏の朝いきいき行こうラジオ体そう

いちき串木野市立市来小学校四年 北村 仁歩

つなをひくなみうちぎわのたたかいだあみをあげたら魚がつれた

いちき串木野市立市来小学校四年 田崎 龍成

がいつもの光とどかぬくらい道道てらすのは月ばかり

いちき串木野市立市来小学校五年 久松 香織

ふるさとや空を見ながら帰る道自分だけのプラネタリウム

いちき串木野市立市来小学校六年 大久保 美空

てっぺんにむかつてのびるオクラたちわたしもこんどてっぺんとるぞ

いちき串木野市立市来小学校六年 谷門 優真

見てみれば青い空がのぞいてる美しい森に空もびっくり

いちき串木野市立川上小学校五年 内田 悠進

あまずつばいむくのは大変でも食べたいサワーポメロのあのおいしき

いちき串木野市立冠岳小学校六年 加治屋 杏華

ふるさとへみんなまつてる里帰りいつも落ち着く心のい場所

いちき串木野市立串木野小学校五年 宇都 心晴

夏の空見上げた空とれい山と青々ときそう背比べ

いちき串木野市立串木野小学校五年 江口 優輝

夏がきた今年もにぎわう商店街私もおどる串木野さのき

いちき串木野市立串木野小学校五年 大重 美結

海の幸たくさんつまつたさつまあげ串木野じまんのきつまの味だ

いちき串木野市立串木野小学校五年 肝付 健太

ふるさとはやさしいひとがたくさんで今日から私もその一員に

羽島から夢へはばたく英国へ強い心で私もちかう

串木野の塩風香る照島のはまけいばでは馬がかけぬく

はまけいばじゆうなポニーすなはまでかわいくはしるぜひみにきてね

夏の夜ヨイシヨのかけ声元氣よく心もおどる串木野さのさ

串木野のさのさ祭りだおどりれんうけつがれゆく伝とう遊ぎ

英国を目指して行った留学生今でも残る黎明の地だ

ふるさとのあたたかい風ただよって夕日が照らす私の海を

あいさつを相てにするとあいさつが自ぶんにくるよすつきりするな

照島の砂浜走る浜けい馬海や太陽忘えんしてる

磯の香りこれが私の自然のにおいこれが私のいつもの香り

ありがたい地いきの人たち毎朝の横断ほ道しつかりわたろう

大空に不思議なくもがひろがって真つ赤な太陽この町照らす

きれいだなはしまぎきから見える夕日海の下へとしずんでいくよ

いちき串木野市立串木野小学校五年 久保 潤奈

いちき串木野市立串木野小学校五年 重留 茉桜

いちき串木野市立串木野小学校五年 副島 優翔

いちき串木野市立串木野小学校五年 中村 はる

いちき串木野市立串木野小学校五年 西 心路

いちき串木野市立串木野小学校五年 萬造寺 祐斗

いちき串木野市立串木野小学校六年 星原 伽恋

いちき串木野市立生福小学校五年 伊集院 清楽

いちき串木野市立生福小学校五年 砂坂 城太

いちき串木野市立生福小学校六年 神田 凜桜

いちき串木野市立照島小学校六年 下村 天寧

いちき串木野市立照島小学校六年 松下 綾夏

いちき串木野市立照島小学校六年 松比良 詠美

いちき串木野市立羽島小学校二年 楮山 未来

海あそびきらきらまぶしい羽島崎さかなもいっばいよろこんでいる

ふるさとは自然がいっぱいこの羽島緑の山にすき通る海

羽島はね留学生が旅だった日本の未来を夢見てね

指宿はそうめん流し生まれた地チユルチユルすって指宿味わう

そらをみてくものうえにねのりたいよげんじつではねのれないんだよ

小学校三階から見えるきれいな海はザーザーと光り輝く

ふと見るとここから見えるこの町の自まんの島とたまたまてばこ号

ただいまと帰ってくるよお船さん海にぎょうれつ山川港

棒おどり伝とう教わる雨ごいの歌に合わせてそれドンドン

父の服においをかぐとやっぱりだ父のあせとかつおのにおい

造船所ぼくらのまちのじまんの場機械の音がいつも聞こえる

夏祭りみんな集まりもち投げだ拾えた人は運がいいのかな

山登り木々の先にはゴオゴオと水の音して万滝みえる

海水で育ったかんばち身がしまるふるさと支える水産業

いちき串木野市立羽島小学校四年 藤崎 善士

いちき串木野市立羽島小学校六年 萩元 雅

いちき串木野市立羽島小学校六年 藤田 琉聖

指宿市立指宿小学校五年 品川 優晴

指宿市立指宿小学校五年 瀬川 楓亜

指宿市立指宿小学校五年 室屋 蒼生

指宿市立指宿小学校五年 湯之上 陽菜子

指宿市立山川小学校三年 篠原 心遥

指宿市立山川小学校四年 福里 芽生

指宿市立山川小学校五年 坂井 心優

指宿市立山川小学校六年 迫 優志

鹿屋市立寿北小学校六年 厚地 花帆

鹿屋市立寿北小学校六年 有家 彩夏

鹿屋市立寿北小学校六年 池本 晴香

しんせんな魚がとれて食べられるきんこうわんのうまいカンパチ

鹿屋市立寿北小学校六年 内 海皇

なつかしの古くながれたぼくの家小さいころをふと思ひ出す

鹿屋市立寿北小学校六年 大田 玲美

夏の海白い砂浜かけ回りきれいな夕日ひとみにうつる

鹿屋市立寿北小学校六年 川崎 心優

夏の空キラキラ光る太陽がぼくたちに夏感じさせるよ

鹿屋市立寿北小学校六年 小牧 央季

里帰り実家のおいかみしめて母のぬくもりなみだ一滴

鹿屋市立寿北小学校六年 竹熊 倅埜

ふるさとのアルバム開く桜花花びらゆれてかがやいている

鹿屋市立寿北小学校六年 中村 苺楓

とうめいの水こじかしようちゅうのんだあと心にひびくおいしきの声

鹿屋市立寿北小学校六年 荷掛 諒馬

夏祭り焼きそば買って歩いたら花火が夜を照らしていたよ

鹿屋市立寿北小学校六年 前下 苺麗

どこからか風にふかれていいかおり周りを見たらばらまんかいだ

鹿屋市立寿北小学校六年 牧園 希星

あじさいが梅雨の晴れ間に生き生きとブルーやピンクあざやかに咲く

鹿屋市立寿北小学校六年 八木 花楓

茶畑の八十八夜歌う声緑の香り鼻をくすぐる

鹿屋市立寿北小学校六年 吉見 優花

おしえてよきれいなおよぎおさかなさんいつてみたいなこしきのうみへ

薩摩川内市立里小学校一年 石原 姫香

つきあかりゆれるぎよせんきらきらとなみのあいだにはねるキビナゴ

薩摩川内市立里小学校二年 塩田 瑞歩

羽広げゆうがにおどるそのすがた出水のつるのダンスパーティー

薩摩川内市立里小学校四年 野間口 俊介

伊作小毎日木に来るアオバズクみんなの未来を見守っている

海亀が毎年来るよ吹上浜これがぼくらのほこりの浜だ

大きな木みんながのぞくアオバズクえだの中からみんなを見守る

宮内地区毎年つなぐ伝統を今年もおどるかまんでおどり

ウミガメがぼくらのまちにやってくるたまごをうんで30年後

げんかんで日新様が見ているよ朝から晩までぼくたちのこと

伊作小かるたが有名日新公四十七首の教えを学ぶ

アオバズク毎日毎日木の上でかくれてみんなを見守っている

昔から高学年がおどってるソーラン節はぼくらのでんとう

6年生1年生に本を読むじつくりみるからまたよみたい

かねたいこ伊作田おどりほうのうし祖先を想う夏の一日

くせになる伊集院まんじゅうのやわらかき手がのびすぎて白い口元

潮風が幸せ運ぶ甑島笑顔届けてみんなつながる

つつみからこころこもったばあちゃんのアンダーギーと喜界のかおり

日置市立伊作小学校六年 有馬 伊吹

日置市立伊作小学校六年 浦中 悠吾

日置市立伊作小学校六年 原田 帆乃華

日置市立伊作小学校六年 松澤 正幸

日置市立伊作小学校六年 丸山 元熙

日置市立伊作小学校六年 牟田 翔樹

日置市立伊作小学校六年 山川 千洋

日置市立伊作小学校六年 山口 菜子

日置市立伊作小学校六年 山口 諒真

日置市立伊作小学校六年 柳元 佳苑

日置市立伊作田小学校四年 豊辻 奈来

日置市立伊集院小学校六年 宇田 悠希

日置市立伊集院小学校六年 岡田 悠治

日置市立伊集院小学校六年 澄田 望琉士

ゆらゆらと静かに流れる神の川今日も朝から心の洗たく

日置市立伊集院小学校六年 中園 華世

神の川夕日が映る川流れ雲と一緒にあかねにそまる

日置市立伊集院小学校六年 米森 千華

竹林にはいればなつかしおもいでがたけのこほりやちゃんばらごっこ

日置市立伊集院北小学校五年 小田 幸輝

チェストかんしぜんめぐみもしゆうけつしたべてみるたびふるさとのあじ

日置市立伊集院北小学校五年 上橋 奈和

ふるさとのきんこうわんでつりをするおおものつるぞめぎすはメジナ

日置市立伊集院北小学校五年 小村 一心

ふるさとのほこりみつめる桜島さいごうたかもりこれ見て育つ

日置市立伊集院北小学校五年 濱上 蘭

さくらじまやまやまこえていそぐわれそろそろみえるぞふんかのけむり

日置市立伊集院北小学校五年 前鶴 颯介

ほうきくをねがってとぶよせつべとおとなと子どもえがおいっばい

日置市立日吉小学校三年 葛迫 鈴奈

せつべとべおいしいお米作るためみんなでおどるお田うえおどり

日置市立日吉小学校三年 川窪 玲愛

日がしずみ水平線もピンク色耳をすませばこおろぎの声

日置市立日吉小学校三年 平田 華之佳

せつべとべ今年もやってる田人^{とど}たちどろんこまみれ笑顔はじけて

日置市立日吉小学校四年 ペドリンハム ピーター

せつべとべ田人^{とど}は田んぼでどろだらけみんな笑顔で歌ってはねる

日置市立日吉小学校五年 有馬 虎太郎

大川にホタルとびかい空にまうほのかにひかる子どものがお

日置市立日吉小学校五年 熊谷 晴琉

中学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

的見据え仲間の想いを胸に抱きこの矢にかける緊迫の一瞬

とき

いちき串木野市立串木野中学校二年 濱寄 姫衣

【市長賞】

赤ちゃんの寝息のような風が吹く淡い緑がふわりと香る

いちき串木野市立羽島中学校三年 久保 蓮佳

【県歌人協会賞】

雨の日はぼくと一緒に遊んでる体をひろげて楽しそうな傘

始良市立帖佐中学校二年 本渡 星宇

【選者賞】

みたま

地車に古人の御霊かつがせてふるさとを行く花冠祭かな

かかんさい

いちき串木野市立生冠中学校二年 国分 優成

【教育長賞】

父の日に祖父の田植えに父と行く三代並んで苗箱リレー

いちき串木野市立羽島中学校二年 坂口 陸暉

【南日本新聞社賞】

夏空の月の光を映しだす父と歩いた八重の棚田

鹿児島市立郡山中学校二年 時崎 由理

【特 選】

会場を包みこむよな歌声を届けてみせる私の指揮で

幼き日母が歌った子守唄今でも耳にこだましている

この雨は君が流したしづくにねにいてぼくは胸が痛いよ

僕の進路赤信号で停ってばつかそれでもぼくはあきらめない

友達の甘い恋バナ聞いた夏体がほてる王様ゲーム

ダツシユダツシユ打って守ってまたダツシユがんばれくじけず勝つぞ己に

せみの声びたりとやんだ秋空にリレーの歓声響きわたる

川岸に写る祇園の山々が夏の夜空に声響かせる

串木野に海からとどく波の音山からとどく森のざわめき

浜競馬たてがみなびく潮風とかけぬけていくひづめの響き

面結びぼくは誓った勝つためにいまは見えない鍛錬の道

席替えて続けて二回窓ぎわにあの青空を泳いでみたい

大好きだ伝えられればラクなのに君の気持ちこそわせないんだ

始良市立帖佐中学校二年 加藤 菜月紀

始良市立帖佐中学校二年 税所 桃子

始良市立帖佐中学校二年 瀧間 隆斗

始良市立帖佐中学校二年 竹山 優輝

始良市立帖佐中学校二年 鶴園 小羽音

始良市立帖佐中学校二年 脇元 大輝

出水市立出水中学校二年 戸崎 壱斗

いちき串木野市立市来中学校二年 坂元 尚眞

いちき串木野市立串木野中学校一年 宮前 聖汰

いちき串木野市立串木野中学校一年 宮元 麻里

いちき串木野市立串木野中学校二年 浦崎 桜風

いちき串木野市立串木野中学校二年 芹ヶ野 紗和

いちき串木野市立串木野中学校二年 中野 峻太

居場所とは未完成のパズルのよう他に支えられ次は自分が
 澄みきったこの青空に手をのぼす届くはずもないあの雲めざす
 あじさいの花に滴る雨粒が水鉢の中波紋広がる
 校庭の不規則に並ぶ足跡が梅雨が来たのを知らせてくれる
 先人の夢をしのんで立つはまの空をこがすかやよいの夕日
 風にゆれささやきこぼすこの稲もずっと変わらぬ私のふるさと

【入 選】

あの花もいつかいつかと願いこめ今日も日陰で夢見つづけて
 白球が手から離れるその瞬間はしる緊張キャッチャーめがけ
 地区総体嫌でもやった丸刈りに心もスツキリ夢の舞台へ
 日暮れまで友と遊びし公園のさびたブランコ巻雲の空
 おじいちゃん今年もできた夏野菜今夜のサラダは絶品サラダ
 田んぼ道つめたい風がふいたとき鶴の親子がはばたいていた
 晴天もとの下のはく息白々と寒さの上で響くねつるの音

いちき串木野市立串木野西中学校二年 黒木 瑠莉

いちき串木野市立串木野西中学校二年 土川 楓

いちき串木野市立串木野西中学校三年 市来 桜子

いちき串木野市立串木野西中学校三年 中屋 愛菜

いちき串木野市立生冠中学校一年 有馬 ゆうひ

鹿児島市立郡山中学校三年 川路 夢樹

始良市立帖佐中学校二年 下脇 也奈

始良市立帖佐中学校二年 徳留 陽香

始良市立帖佐中学校二年 松元 統吾

始良市立帖佐中学校二年 宮園 華依

出水市立出水中学校二年 新垣 優姫

出水市立出水中学校二年 片野 昊華

出水市立出水中学校二年 田上 なな子

水田に波紋が浮かび傘をさすふと見返せばあめんぼのかげ

鶴がきた寒さではなく耳すまし音で感じる冬のおとずれ

ふるさとの見慣れた景色に囲まれて旅立つ姉よいつてらっしやい

江戸末期年季入った草履付けた忠敬足をとられて吹上浜歩く

朝日照り木の葉が踊る通学路一緒に行こうと呼ぶ友の声

セミの声悲しいときはやかましくうれしいときは心がはずむ

太陽に背伸びしている向日葵は私の心も背伸びさせる

真夏の大会みんなの応援が背中を押しスマッシュ一球汗が舞いちる

夕焼けと赤くそまる君の頬いつもの道さえ違つて見える

木の下で風に揺らいで見上げれば光ですける緑の葉たち

勇かなな十九人の舟の旅彼らのように風を吹かずぞ

初夏の夜点々とひかるほたるたち私のおもいをほたるにのせて

冬の朝父と乗った白い船その時に見たでっかい背中

とれたてのいもを右手にハイチーズみんなの笑顔が絵からあふれる

出水市立出水中学校二年 宮内 玲美

出水市立出水中学校二年 森園 朱架

出水市立出水中学校二年 山崎 安里沙

いちき串木野市立市来中学校二年 淵上 晴琉斗

いちき串木野市立市来中学校三年 濱崎 陽丞

いちき串木野市立串木野中学校二年 今村 日香

いちき串木野市立串木野中学校二年 武田 梨花

いちき串木野市立串木野中学校二年 土川 大輝

いちき串木野市立串木野中学校三年 南新 萌乃美

いちき串木野市立串木野西中二年 川畑 陽介

いちき串木野市立生冠中学校二年 西田 周太

いちき串木野市立生冠中学校三年 中野 瑠七

いちき串木野市立羽島中学校二年 入枝 蓮

いちき串木野市立羽島中学校二年 久保 明寛

家の戸の壁に見えるはつばめの巣今年も来たど母が微笑む

小学校わき水池は今はない冷たくかたい道路の下に

秋口に家族総出で稲をかる顔を見合せて笑った夕暮れ

山だらけ今の私は都会推しふるさとを出る寂しさ知らず

裏山の動物たちの畑あらし家の番長弟みはる

通学の窓から見える桜島今日も明日もただそこにある

【佳作】

帖佐中夏は暑いし冬寒いどうかエアコンつけてください

なにげなく言った一言「ありがとう。」それがみんなのやる気スイッチ

アイフォンの中に眠る思い出たちあの子と過ごした祖父母の町

おこづかいもらってすぐになくなっちゃう財布に穴はあいてないのに

夏の夜とある部屋での物語蚊と人間の生存競争

今見えたフェリーからの桜島母さんたちは元気なのかな

「ねむたいな。」自分と闘い百点を採って喜ぶ夢を見てたよ

鹿児島市立郡山中学校二年 内村 葉那

鹿児島市立郡山中学校二年 河野 桜子

鹿児島市立郡山中学校二年 原口 夏希

鹿児島市立郡山中学校二年 松山 留実

神村学園中等部三年 坂口 孔平

神村学園中等部三年 園田 凜

始良市立帖佐中学校二年 追立 佳乃

始良市立帖佐中学校二年 神菌 大和

始良市立帖佐中学校二年 河野 李桜

始良市立帖佐中学校二年 小北 翔太

始良市立帖佐中学校二年 迫田 健吾

始良市立帖佐中学校二年 末吉 晃矢

始良市立帖佐中学校二年 戸島 健翔

暑い夏日本一の大クスはみんなを涼ます郷土の誇り

お母さん少なすぎるよ朝ごはんおにぎり一個はおなかすくじゃん

お母さん人には優しいお母さんその優しさをいつも見せてね

お年玉すべて母にとられちゃう母はかせいでたまっているのに

建物はあまり多くない街だけどきつとどこより笑顔が多い

どっかんと夜空に花火きれいだねはにかむ君もかがやいてるね

夏の日の車の灰を流す水朝の光にきらめくしぶき

夏休みだらだらのろりなまけもの母の怒りが爆発する日々

ふるさとで今も待ってる仲間たち会いに行くよトッピー乗って

なつまつりキレイにかがやく花火たち月にうつる君の横顔

あいさつをかわすだけでもうれしくてしあわせな日々続けばいいな

ひそひそとからすに隠れ成長しやつと菓立ったつばめの子かな

かなしみをあの子の背中が伝えてるここはぼくとあなたのふるさと

夕やけが稲穂を照らす秋の日に鶴が鳴いてるふるさとの声

始良市立帖佐中学校二年 野元 逸生

始良市立帖佐中学校二年 萩原 凜

始良市立帖佐中学校二年 日高 健介

始良市立帖佐中学校二年 福留 聖翔

始良市立帖佐中学校二年 袋野 紗来

始良市立帖佐中学校二年 松下 幸生

始良市立帖佐中学校二年 安田 智香

始良市立帖佐中学校二年 吉川 心結

始良市立帖佐中学校二年 吉田 雄俐

出水市立出水中学校二年 池田 久怜愛

出水市立出水中学校二年 市園 姫花

出水市立出水中学校二年 岩崎 さくら

出水市立出水中学校二年 上野 潤希愛

出水市立出水中学校二年 宇藤 菜月

ダンボールいっぱい詰まった祖母の味島のみかんが今年も実る

ラムネ瓶反射している夜空の華これぞまさしく夏の宝石

浴衣着ていつもの場所で待ち合わせ顔見合わせて笑みがこぼれる

セミたちの声に負けじと子供たちそれを見守る空の日向葵

鶴の地にブイの字作り舞い降りる親は子を見守り子は親を頼る

すきとおる君の横顔きれいだなこの横顔ももう見れないな

夕焼けでまつ赤に染まる君のほほ夕日が沈む届かない想い

夏祭り想いをよせるあの人と花火の音と聞こえない告白

夏祭り花咲く夜空見上げてもやっぱり君が一番きれい

夏休み計画だけが整ってあとは実践これができない

青い風身にうけながら育ちゆくぼくのふるさといちき串木野

市来の地外からかおる海のおい町を染める青色の風

市来の地緑と青が町染めて時間忘れて見続ける僕

真夏の日荒川にホタルきらめいていつもの夜より星がいっぱい

出水市立出水中学校二年 楠元 優希

出水市立出水中学校二年 四郎園 颯優

出水市立出水中学校二年 玉目 陸

出水市立出水中学校二年 西園 花凜

出水市立出水中学校二年 橋口 宇輝

出水市立出水中学校二年 町田 稟華

出水市立出水中学校二年 松田 心結

出水市立出水中学校二年 茂原 小雪

出水市立出水中学校二年 山崎 士聖

出水市立出水中学校二年 山野 玲奈

いちき串木野市立市来中学校一年 岩村 珊瑚

いちき串木野市立市来中学校一年 上原 侑真

いちき串木野市立市来中学校一年 大屋 璃玖

いちき串木野市立市来中学校一年 奥ノ園 芽依

私の地みんなにぎわうぎおん祭り花火があがり明るくてらす

教室にかおりが届く潮の風身に受けている市来中学

市来からポンカンの匂いただよってきのき踊りで匂い打ち消す

明治維新維新の風は羽島から鹿見島の偉人十九人

耳をすませ聞こえる音は波の音空と自然と潮のにおい

めぐまれた土地に根をはり育ちゆく黄金果物サワーポメロ

ふとみれば祭りの熱気ほほ触れて引き寄せられる私の気持ち

この町でとれたマグロを食べながら胸に抱いて漁師の思い

始まったこんがり香るその瞬間毎年恒例にぎやか祭

帰り道知らない人からおかえりと言われてうれしい市来のまち

漁師の活気と共につりあげる串木野名産大きなマグロ

羽島より世界に飛び立つ十九人今の便利は彼らが作った

ぎおんさいかけ声ひびく夜の町静かな町に鈴の音光る

ふるさとは落ち着くところなやみあるそういうときは帰ってこよう

いちき串木野市立市来中学校一年 久保 ももか

いちき串木野市立市来中学校一年 溜池 璃久

いちき串木野市立市来中学校一年 西中間 康汰

いちき串木野市立市来中学校一年 淵上 元貴

いちき串木野市立市来中学校一年 松田 百花

いちき串木野市立市来中学校一年 桃北 光基

いちき串木野市立市来中学校二年 飯山 蓮聖

いちき串木野市立市来中学校二年 大城 深結

いちき串木野市立市来中学校二年 尾高 希

いちき串木野市立市来中学校二年 紙屋 塔子

いちき串木野市立市来中学校二年 住吉 航弥

いちき串木野市立市来中学校二年 田重田 祐大

いちき串木野市立市来中学校二年 田丸 侑采

いちき串木野市立市来中学校二年 鳥井原 夏貴

自然から緑豊かな空気がねそよりきれいに流れていくよ

ぼくマグロさつきまでいた青い海今はキッチンどうなるのかな

サワーポメロさわやかな香り潮風共にこの小さな町へ広がっていく

すぐそこに流れる川を見つめれば悩みも一緒に流れたみたいだ

ジリジリと日照る太陽たえながら黄色く焼けてくポンカンたち

桃色と重なる青空微笑んで自分の心にしみわたる春

畑行き野菜のにおい久しぶり好いてはないが思い出なのだ

風を背に全速力でかけるけど思い出と沈む八房の夕日

星空に屋台の明りが人あつめ明るい花びら音をひびかせ

丘の上市来の町を独りじめ自然いっばい守らなくては

緑から鳥のさえずり聞いていると子どもの声が聞こえてくるよ

遠くから鳴り響いてる祭りの音静かな夜空に輝やく花火

ピンとこない何考えてもひらめかない俳句はキラい短歌もキライ

夏休み勉強地獄母もおに毎日つらい悲しい日々

いちき串木野市立市来中学校二年 中間 日菜

いちき串木野市立市来中学校二年 濱寄 秀太

いちき串木野市立市来中学校二年 丸山 仁一朗

いちき串木野市立市来中学校二年 山内 輝翔

いちき串木野市立市来中学校三年 北園 隆斗

いちき串木野市立市来中学校三年 久保 星夏

いちき串木野市立市来中学校三年 新町 美月

いちき串木野市立市来中学校三年 松元 しなて

いちき串木野市立市来中学校三年 丸山 愛貴

いちき串木野市立市来中学校三年 宮内 陽

いちき串木野市立市来中学校三年 巡 幸樹

いちき串木野市立市来中学校三年 安武 愛心

いちき串木野市立串木野中学校一年 片山 華孔

いちき串木野市立串木野中学校一年 羽山 汰一

夏の空友が指さすその先はいつぱいの夢それぞれの未来

夏の空輝く太陽向日葵と流れる雲にあなたを思う

彼の背を目で追いつつも目が合うとそらしてしまう不思議な気持ち

通学路今朝の子猫の鳴き声は私の家族の応援のよう

ふと思えばアルバムだしてページめくる小学生にもどりたくなる

青い空ずっと見てたら心吸われこの日がずっと続けばいいな

前夜祭ゆかた姿でツーショット照れる二人は少しにが笑い

応援団がなくなく引いたくじ当たるやりたくないけどがんばろうかな

帰り道夕日に照らされうつつる影二人でならんで止まらぬ話

照島の海岸走る浜競馬風に乗って馬かけぬける

下校中僕らを照らす夕焼けは僕らの青春いつもながめた

テスト前スperlつめ込み頭の中パンク警報発動中

午後五時の音色がひびく町なみの人影てらす夕日の光

きつねいろこんがりあげたつけあげはみんなのじまん冒ぶくろいやす

いちき串木野市立串木野中学校一年 船蔵 あこ

いちき串木野市立串木野中学校二年 上福元 大夢

いちき串木野市立串木野中学校二年 瀧山 琴音

いちき串木野市立串木野中学校二年 下松八重 拓土

いちき串木野市立串木野中学校二年 芹ヶ野 舞依

いちき串木野市立串木野中学校二年 中野 光也

いちき串木野市立串木野中学校二年 中村 路佳

いちき串木野市立串木野中学校二年 和田 瑚波

いちき串木野市立串木野中学校三年 上山 心愛

いちき串木野市立串木野中学校三年 仮屋 結菜

いちき串木野市立串木野中学校三年 末弘 大貴

いちき串木野市立串木野中学校三年 中村 瑠似

いちき串木野市立串木野西中学校一年 入枝 珠菜

いちき串木野市立串木野西中学校一年 甲斐 千尋

はまけいばパカラパカラとはしりだすぼくのこころもはしりだしそう

ふるさとを思う気持ちをさせる君見上げる夜空北極星

伝とうのさのさおどりは串木野の大こくばしらとも言えるそんざい

教室で睡魔と戦う授業中まどからみえる串木野の町

波の音静かな海に響きわたる私の夏が今はじまる

木々豊かふるさとの町風が吹き自然のにおいまとわりつくよ

梅雨入りアジサイにつく水滴が冬におりたるしものごとく

あいさつをかわしてみたら気持ちがいい語先後礼がいちばんいいね

かつばきて海に出かける釣り人は雨ニモ負ケズ風ニモ負ケズ

開かれし日本の先駆けここ薩摩偉人の出航羽島の岬

知らない地勇気を出して留学を決めた先人我が地の誇り

君の声むねの中でよみがえる蛍とびかうあわい思い出

青々と茂る苗床ばあちゃんの苦勞見えるよありがたい夏

田んぼ道友と歩いた下校中植えたばかりの苗と目が合った

いちき串木野市立串木野西中学校一年 川畑 英奨

いちき串木野市立串木野西中学校一年 田畑 侑眞

いちき串木野市立串木野西中学校一年 早川 浩成

いちき串木野市立串木野西中学校二年 川宿田 莉芹

いちき串木野市立串木野西中学校二年 久保 小暖

いちき串木野市立串木野西中学校二年 玉田 麗弥

いちき串木野市立串木野西中学校三年 後潟 祥斗

いちき串木野市立串木野西中学校三年 大井 琥珀

いちき串木野市立串木野西中学校三年 潟永 杏

いちき串木野市立生冠中学校二年 池之上 光

いちき串木野市立生冠中学校二年 吉村 歩乃佳

いちき串木野市立生冠中学校三年 大藪 咲幸

いちき串木野市立羽島中学校二年 野村 元暉

いちき串木野市立羽島中学校二年 福藪 蓮児

羽島にはたくさん思い出つまつてる消しゴム使つても消せぬ思い出

山々の連なる四季の葉の色が季節を題したもようを描く

外見ると山しかないよふるさとは何かいい店できてほしいな

帰り道いつもの道の安心感十五年間変わらぬ風景

いつもの道あの子の手には第二ボタン僕の胸には変わらぬ想い

通学路いつも見えてたあの山が最後の日には白く色付き

天降川走って転んだ五歳のあたし自転車を通る十四の私

チェストいけきばいやんせの合言葉霧島山に背中押されて

さくらじま今日もまたまたふんかしてみんなこまらすつくえのざらざら

登下校いつもあいさつおばあちゃん今日も元気で明日も会うかな

きんぼうの自然の良さをなつかしむ母の思いは我には知れぬ

大口を開けてほおぼる良い米が出来ればよかねおつかれ様会

やめてよね怒らないでようざいなあ汚れちゃったよ桜島さん

上方で声をはりあげバンバンと家で観戦川内大綱

いちき串木野市立羽島中学校二年 堀切 颯真

鹿児島市立郡山中学校三年 瀬戸口 空輝

鹿児島市立郡山中学校三年 牧迫 実幸

鹿児島市立郡山中学校三年 脇田 結衣

鹿児島市立吉野東中学校三年 瀬戸口 愛梨

鹿児島市立吉野東中学校三年 古川 倭花

霧島市立国分中学校二年 上野 日菜

霧島市立国分中学校二年 守田 華琳

日置市立土橋中学校一年 中窪 怜

日置市立土橋中学校二年 稲留 秀虎

日置市立土橋中学校二年 梶 玄太

神村学園中等部三年 古城 こころ

神村学園中等部三年 徳永 美都

神村学園中等部三年 福山 あい

高校生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

踏み鳴らせこの地を揺らすつくいもんしじまの空に踊る花笠

県立甲南高等学校一年 西中間 百花

【市長賞】

せつぺとべ田の神届けと高らかに泥を踏みしむ輪は広がりにて

県立市来農芸高等学校二年 山内 悠杏

【県歌人協会賞】

自販機の横のベンチに腰かけて潮風そよ吹く行きつけのカフェ

県立市来農芸高等学校三年 宇都 愛梨

【選者賞】

会を待て耳をすませば聞こえるいま矢を離て風のささやき

神村学園高等部二年 松窪 鈴華

【教育長賞】

蘭牟田池揺れるみなもにかげうつす緑の山々浮かぶ白鳥

神村学園高等部二年 湯之原 雅

【南日本新聞社賞】

浜競馬熱き大人のたたかいを夏のひざしがあとおししてる

県立串木野高等学校二年 上村 愛梨

【特 選】

祖父母らと摘みし山菜たつぷりの炊き込みごはん大きく頬張る

御所浦ごしようらに帰省す靴重たきや一年分のお喋り詰めて

縁側に一列並び種とばすスイカ涼しき祖父のいた夏

桜の木いつも見ているこの花を忘れる時がくるのだろうか

牛恐れ泣き止まぬ子の祖母の手に抱かれて帰るガウンガウン祭り

猛暑告ぐニュース見るたび過るのは畑に立てる祖父母の姿

降り止まぬ雨に沈みし田の稲の生命力を信じて居れり

漆黒の中に飛び交ふ螢火や流星のよう空から落ちて

夏の夜熱気にまざる小さい灯あれはなつかしきのきの灯し火

太陽が二つてらしたそのかげは小さきぼくとなつかしき父

チャリこいで行ける気がしたどこまでももうどの道も歩くことなし

魚ひきあげ港に響く漁師の声あつき沸きだす夏の始まり

喜界島ごまの生産日本一汗水流し父は働く

県立市来農芸高等学校二年 下村 璃乃

県立市来農芸高等学校三年 浦崎 未来

県立市来農芸高等学校三年 白石 淳

県立市来農芸高等学校三年 中畑 利斗

県立市来農芸高等学校三年 中屋 風花

県立市来農芸高等学校三年 銚谷 梨那

県立市来農芸高等学校三年 牧瀬 麻鈴

県立市来農芸高等学校三年 盛 順也

県立串木野高等学校二年 幾留 美輝

県立串木野高等学校三年 坂元 流星

県立串木野高等学校三年 星原 一慶

県立串木野高等学校三年 屋久 紅葉

県立喜界高等学校一年 西岡 混貴

汗流しじゃがいも掘り出す昼下がりに顔の赤土気付かぬままで

大空に響き渡りし波の音はさらけ消し去る船団の声

神村にプロに行くためここに来た第2のふるさといちき串木野

日本一とつて必ず恩返し串木野の町有名にする

子どもらがふるさと祭りをつかみどり活きたかんばち家族の笑顔

夏の日に暑さも忘れみな夢中ソーラン節の声なりひびく

目の前の無限に広がる砂浜は夏の青春描く手伝い

見下ろせば棚田で揺れる^{こがねいろ}黄金色風に溶け込む稲穂の香り

【入選】

夏祭りみこしをかつぐ同窓の久しき姿大人びてをり

錦江を彩る花火照らされた母の横顔余所行きのように

降り止まぬ響く警報雨音に目覚める深夜ふるさと想う

灯笼の淡き光の灯る道歩けば心柔らかになり

暴れ出す牛を恐れて散り散りに泣き逃げるやガウンガウン祭り

神村学園高等部一年 飯尾 優太

神村学園高等部二年 井坂 夏姫

神村学園高等部二年 稲田 翔真

神村学園高等部二年 高城 将斗

神村学園高等部二年 津崎 由佳

神村学園高等部二年 松崎 さんせい

神村学園高等部三年 宮原 詩織

神村学園高等部三年 森山 陽世

県立市来農芸高等学校三年 岡田 百々花

県立市来農芸高等学校三年 平 健太郎

県立市来農芸高等学校三年 徳田 そらみ

県立市来農芸高等学校三年 豊辻 奈央

県立市来農芸高等学校三年 前田 倫秀

いつの間に我が背を越した君と歩く見上げて話す顔ぎこちなく

おかえりと家に帰ると祖母の声耳に留め置く高三の夏

ふるさとの一番最強浜競馬砂浜走る馬はよかにせ

父と見た羽島に浮かぶまっかな夕日心の中を照らしてくれる

六調の音色に乗せて手を振れば島人ぬ宝ここに極まれり

海風と食欲そそるまぐろ井潮の香りが鼻孔くすぶる

サリナス国境越えて結びつく日本に続く第二のふるさと

サリナスと串木野つなぐ飛行機雲親睦深まる交流の時

集落に一つだけある神秘の木精霊集まる巨大ガジュマル

島唄や六調をする島人の明るい性格受け継いでいく

炎天夏海へ飛び込む仲間達つられて僕もしぶきをあげる

熱い夜かけ声響くねふた祭り知覧の夜をにぎやかにする

どろだらけ土と争いほこらしげいもを比べて秋を迎える

夜の空大きく咲いた火の花に見惚れるあなたに見惚れてた

県立市来農芸高等学校三年 幸 結理

県立市来農芸高等学校三年 若山 莉彩

県立串木野高等学校一年 田島 百花

県立串木野高等学校一年 中野 聖鳴

県立串木野高等学校一年 松元 健亮

県立串木野高等学校二年 小菌 大智

県立串木野高等学校三年 福菌 亜理紗

県立串木野高等学校三年 松崎 愛弥

県立喜界高等学校一年 田辺 勝海

県立喜界高等学校一年 大喜 弘奈

県立喜界高等学校一年 盛崎 仁

神村学園高等部一年 菊永 栞菜

神村学園高等部一年 北野 楓

神村学園高等部一年 濱島 夏鈴

三線や太鼓とともに絶え間なく踊れ狂えや島んちゆ魂

春風が散った花びら踊らせて道路も満開桜木通り

学校の外から見てる桜島今日も窓から授業参観

地元から離れて気づく大切さ言葉の壁にぶつかりがちだ

ありがとう思い出つまった祖父の家生まれ変わってみんなの家へ

じいちゃんに手をひかれつつ見てまわる六月灯の明るい光

バス通学いつ外見てもみどりだけ都会の外はどうなんだろう

漁火が夜の海を照らしだし思いだすのは漁師の祖父

閉校と風の便りで浮かぶのはあせぬ思い出稲穂の畦道

若き日の父が見ていた夕焼けと変わらぬ景色を受け継ぐ私

水田を鏡変わりに身だしなみカエルやトンボ人の心も

【佳作】

夏祭り親しい友との再会ににぎわいの中負けぬおしゃべり

夏祭り見上げる空に舞う花火友の笑顔を明るく照らす

神村学園高等部二年 有川 雅

神村学園高等部二年 岩元 千寛

神村学園高等部二年 宇野 夏妃

神村学園高等部二年 翁長 希羽

神村学園高等部二年 影山 愛央

神村学園高等部二年 小濱 未来

神村学園高等部二年 永留 綺梨愛

神村学園高等部二年 西本 由梨香

神村学園高等部三年 川原 奈桜

神村学園高等部三年 坂元 春香

れいめい高等学校一年 諏訪元 玲来

県立市来農芸高等学校一年 川路 遥佳

県立市来農芸高等学校一年 谷畑 純香

涙目で家に帰ると大丈夫？その一言であふれ出る想い

福山を赤く色どる百万本今年も通るローズガーデン

仲間との思い出包む公園や色あせぬまま今も輝く

見渡せど自販機一つ見つからぬけどふるさを自慢してをり

大物は狙われ過ぎて逃げるのも上手くなりたり金魚すくいや

進路決む覚悟を決めたわが心桜島のように燃えたぎりけり

長かりし梅雨前線通過せば青々と立つ桜島あり

風に乗り声援あびて駆け抜けん追いつけ追いつけこせ浜競馬かな

指宿の海辺彩る大輪の花火上がればお喋り忘る

涼求め窓を開ければ一匹の蛍や部屋を灯してくれり

何もないこと嘆きつつ過ごしてたはずなのに今恋しく思う

太陽で輝やく海のふるさとは僕らの心も輝やかせる

若人が未知の土地へと羽島から旅出る勇氣私も欲しい

串木野の広大な海太陽がから紅に赤く染めるよ

神村学園高等部一年 大戸 美鈴

県立市来農芸高等学校一年 村上 想

県立市来農芸高等学校二年 二宮 愛瑞美

県立市来農芸高等学校二年 寶満 友稀

県立市来農芸高等学校三年 窪園 征那

県立市来農芸高等学校三年 國料 祥子

県立市来農芸高等学校三年 坂元 綾夏

県立市来農芸高等学校三年 塚田 晴紀

県立市来農芸高等学校三年 堤 友乃花

県立市来農芸高等学校三年 南 生吹

県立市来農芸高等学校三年 八代 菜々

県立串木野高等学校一年 猪之鼻 駿太

県立串木野高等学校一年 岩谷 茉奈

県立串木野高等学校一年 上新 遼太郎

友達と夕日の見える海へゆく静かな町に波音ひびく

祭り声あちらこちらで音が呼ぶ自分もつられ心が踊る

串木野の海は澄みきりとてもきれいお魚たちは幸せそうだ

羽島から英国めざし日本から知らぬ国へと出ていったよね

青の海緑の山と太陽が生み出す笑顔と特産品

美しき海風そよぐ照島神社夏夜の御社さらに美し

消えゆくとも赤い夕日と私をつなぐゆれる群青光の橋

徐福像夕日が照らすこの場所で串木野の町見渡している

波揺れる濃き青き海眺めれば波の音聴き心休まる

海鳴りに呼ばれて歩く砂浜を跡を残さぬ日が沈むころ

どこからもきれいに見える夕焼けを共に見るのは最高の友

せつぺとべ声高らかに飛びはねる豊作願い雨ふる田んぼ

浜競馬春のだいごみ海岸で馬がかけぬく皆盛り上がる

帰り際振り返るほどに美しく照り行く太陽水平線へ

県立串木野高等学校一年 楮山 遥

県立串木野高等学校一年 後藤 彩花

県立串木野高等学校一年 五島 歩夢

県立串木野高等学校一年 白坂 黎奈

県立串木野高等学校一年 田丸 歩実

県立串木野高等学校一年 中村 美月

県立串木野高等学校一年 西久保 莉乙奈

県立串木野高等学校一年 服部 遊馬

県立串木野高等学校一年 春成 碧

県立串木野高等学校一年 前畑 実々

県立串木野高等学校一年 松本 志歩

県立串木野高等学校一年 元山 瑞月

県立串木野高等学校一年 山上 日菜子

県立串木野高等学校一年 吉満 さくら

浜競馬鳴りだす大砲ドキドキが止まらず焦り緊張が走る

黄昏に海へと沈む日を背にし今日はまぐるだと胸を躍らす

さのさ祭り君との約束忘れないだけど君はもういないんだ

夏の夜浴衣姿の人たちが集まりだしたさのさ祭りに

陸と海口に入れば幸せが目に入れてみればうるわしい場所

セミの声子供に負けず大きくて串木野の里に夏がやってくる

浜競馬人が集まり賑わう海汗拭う風馬風の如し

行き着くとかすかに薫る潮の道ふるさといつも記憶の中に

授業中聞えてくる船の音今日も誰かがふるさとを訪れる

方舟を聞いて思い出す懐かしの帰りたくなるふるさとの音

照島の潮風かおる心地良さあー身に染みて顔はほころぶ

活発な街を照らす太陽が静かに沈む長崎鼻

風に揺られ音を奏でる木々達と電車の音を恋しく思う

風にのる磯の香りでもみがえる父と釣りした幼き思い出

県立串木野高等学校二年 飯野 七海

県立串木野高等学校二年 大里 紗輝

県立串木野高等学校二年 尾高 凜

県立串木野高等学校二年 坂下 美紗

県立串木野高等学校二年 菌田 弥子

県立串木野高等学校二年 濱田 海斗

県立串木野高等学校二年 別府 騎士斗

県立串木野高等学校三年 井手 梨里花

県立串木野高等学校三年 小段 那奈

県立串木野高等学校三年 杉山 桜花

県立串木野高等学校三年 中村 梨乃

県立串木野高等学校三年 永江 勇征

県立串木野高等学校三年 西田 優美

県立串木野高等学校三年 松下 寛実

この町に海風なびきのびと空に向って育つボンカン

姉妹都市海を渡ったその瞬間親睦深まる交流の場

山のなか涼しいけれど暗いよね川遊びができてホタルが光る

喜界島自然あふれるこの島はオオゴマダラも青空を舞う

喜界島青く輝く島の海魚やサンゴと僕のふるさと

喜界島太平洋の端っこに珊瑚で出来た伸びていく島

海開き年に一回泳げるよふと気がつけば日焼けしていた

入学式不安を胸に抱いてただけど今では笑顔あふれる

太平橋をきれいに踊る老若男女個性の輝るはんやの踊り

夏の夜川辺に光る夏の虫うつとり眺めればあつという間の時

若い衆田んぼの中で歌いとぶ地域一体お田植え祭り

潮風の白い漂う家の前自転車の錆び鳴り響く悲鳴

夕日見え海が真っ赤に染まる頃人でにぎわうおれんじ食堂

暑い日に島んちゅみんな外にでて声援おくるトライアスロン

県立串木野高等学校三年 三窪 葵

県立串木野高等学校三年 村上 凱斗

県立串木野高等学校三年 渡 愛鈴

県立喜界高等学校一年 伊地知 健太

県立喜界高等学校一年 登 祐輔

県立喜界高等学校一年 橋川 望

県立喜界高等学校一年 模 光法

県立喜界高等学校一年 山元 亜耶

神村学園高等部一年 浅尾 芙未香

神村学園高等部一年 池山 友月

神村学園高等部一年 久保 愛彩美

神村学園高等部一年 木場 ももこ

神村学園高等部一年 米次 真穂

神村学園高等部一年 徳田 優香

汗流し大綱を引く男たち年に一度の力の見せ場

なつかしき潮のかおりと海の音自然の風で流されていく

真夜中に鼻の長い訪問者トシドン様がやって来られた

大雨が降れば降るほど思うのは川内川の水量のこと

汗ばむ日しろくまアイスかきこんだ風鈴の音がキーンとひびく

細着る友の姿が美しき次は私が成人式で

鮮やかな衣装でかがやく踊り子の市比野温泉よさこい祭り

涼風にざわめく金の絨毯は名水飲んでたわわに実る

夏の夜地元を照らす三尺玉たちまち港はにぎやかになる

うみのおい風につられてやってくるあつい季節もやってくる

船をおり遠くを見たら桜島おじゃったもんせここがふるさと

アルプスの山々つらなる伊那谷いなだにの青き緑は美しきかな

大綱に群がる地元の男たちぼくもほしいなムキムキボディ

昼下がりはしりまわった原っぱに今はもうないあの日の足跡

神村学園高等部一年 豊田 真心

神村学園高等部一年 鳥入 楓

神村学園高等部二年 西村 美月

神村学園高等部一年 橋元 梨心

神村学園高等部一年 服部 愛音

神村学園高等部一年 藤 鼓美

神村学園高等部一年 松ヶ野 莉世

神村学園高等部一年 松田 吏毅

神村学園高等部一年 松野下 未佳

神村学園高等部一年 森永 遥生

神村学園高等部一年 山崎 佳奈

神村学園高等部二年 池上 実結

神村学園高等部二年 稲森 侑

神村学園高等部二年 宇藤 彩華

外出れば船から見える徳之島早く会いたい私の家族

ふるさとのかおりかんじるかざんばい目がいたいけどなぜかすき

川内は大綱魂日本一西と東の熱き戦い

キラキラと光るそれは薩摩切子ガラスに映るは鹿児島島の歴史

浜競馬白くてきれいな白浜を風にのりながら走る馬たち

おれ叶多南さつまの革命家レベゼンしてる万世ストア

宮之城どこにいても山ばつかバスもなければ電車もない

梅雨終わりコンクリートにあたる陽を懐かしく思う遠き故郷ふるさと

ふるさとのかおりといえばかつおぶしむかしながらのれきしがつのる

夏まつりみんなで食べるりんごあめおびにしめられいきぐるしいなあ

花火咲くこぼれる火の粉せつなけり鹿児島島の空一夜輝く

帰り道ぎこちない二人手をつなぎ夕日に照らされ頬赤い

島民の期待と希望を多く乗せ宇宙へ飛ばすふるさとの誇り

白浜を走り駆ける浜競馬重なり合う声潮風と舞う

神村学園高等部二年 河島 未来

神村学園高等部二年 河野 萌杏

神村学園高等部二年 児玉 吏菜

神村学園高等部二年 税所 愛佳

神村学園高等部二年 坂田 遥風

神村学園高等部二年 佐川 叶多

神村学園高等部二年 迫田 怜士

神村学園高等部二年 佐怒賀 優希

神村学園高等部二年 鶴田 葉月

神村学園高等部二年 中村 麗妃

神村学園高等部二年 永田 楽人

神村学園高等部二年 野田 侑里名

神村学園高等部二年 濱元 彩夏

神村学園高等部二年 羽山 歩果

遠くから島唄のこえ鳴り響き唄で感じる季節の流れ

幼なじみ別々になり会えなくてだけどふるさとがつけかけてくれる

見上げれば長い階段永遠と見下ろし見える新田の鳥居

ばあちゃんの愛情込もったうめぼしが今年も夏に大活躍

あの頃に遊んだあのこはもういないいったいどこへいったのだろう

なつかしい写真を見ればよみがえるもう戻れないあの日の記憶

徳之島ユイの心を大切にみんなで引き継ぐ伝統文化

風薫るカンパチ泳ぐバラのまち優しき味の祖母の煮しめ

さとうきび風にゆれてる田んぼ道帰りたくなるふるさと種子島

なみのうえ潮香る船帰り道おかえりなさいとそよぐ島風

あの人と肩を並べて見た花火川内川で起った奇跡

ふるさとを彩るくだもの臥龍梅ツンも喜ぶ町の香り

地元から釜山の花火美の景色対馬と韓国最高の友

この町の王子と姫はわたしたちはどうしてあなたはあの子のもとへ

神村学園高等部二年 福地 夏菜

神村学園高等部二年 増山 綾華

神村学園高等部二年 町 恋音

神村学園高等部二年 松本 きいな

神村学園高等部二年 丸田 幸生

神村学園高等部二年 森野 恋

神村学園高等部二年 吉岡 亜由菜

神村学園高等部二年 吉永 あすか

神村学園高等部三年 石堂 華音

神村学園高等部三年 具伊 颯薫

神村学園高等部三年 光桑野 海夢

神村学園高等部三年 小原 千弥

神村学園高等部三年 下川 真世

神村学園高等部三年 槻木 遥

よつかぶい裾をぞろびきヒューヒューと親はカメラを子は泣きじやくる

鹿児島歴史をつなぐ私たち未来に届ける西郷どん魂

よーいどん菜の花のなか人々はがんばれと共に知林ヶ島へ

水面にのびる友のりんかくは我が家へ架かる太平橋にて

反抗とあこがれ胸に上京し離れて気づく親の恋しさ

ありがとうそんな言葉を言った時心の中は照れくさくなる

おはようと黄色い旗のおじさんに言われて今日も元気満タン

神村学園高等部三年 寺田 佳小里

神村学園高等部三年 林 かりん

神村学園高等部三年 肥後 佑佳

神村学園高等部三年 本田 慧十

神村学園高等部三年 増田 愛華

神村学園高等部三年 増田 乃愛

神村学園高等部三年 三浦 梨姫

一般の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

駅前の大きな時計は故障中の貼紙のまま令和となりぬ

霧島市 上之園 杏子

【市長賞】

つんつんと少女のやうにアザミ咲く通学の児の絶えし里道

薩摩川内市 別府 初美

【県歌人協会賞】

のり

海苔ひびの光りて潮の引きゆけば手入をせむと磯に降り立つ

出水郡長島町 竹之内 重信

【選者賞】

ころころとゑんどう豆の笑ふ声響きて初夏の畑は太る

霧島市 前原 ナリ子

【教育長賞】

白南風ふく廃校あとの小さきカフェ「やさしい時間」といふメニューあり

霧島市 松永 由美子

【南日本新聞社賞】

有線放送は穏しき郷に猪の出没したるをくり返し告ぐ

霧島市 若松 奈々子

【特選】

ふるさとの誇りを胸にマウンドへ帽子をつかみ打者へ振り向く

餌ねだるこゑ空耳に燕の巣さびさびとあり限界集落

参道の樹樹に紛るる祖父のこゑ茅の輪くぐりの列に入りゆく

夢提げて都会へ行きし子の話す鹿兒島弁に妻とほほえむ

息こに送る「ちまき」主役の箱の中干物竹の子今日の南なん日本にち新聞

望郷の斉の歌を乙女われ等唱和せし日よ羽島の海に

断崖の潮風かぜにビロウ樹いのち生命力燃え神楽鈴かぐらすず似た実も弾け跳ぶ

長旅を終へたるふるさとの空港に焼酎の香のほのと漂ふ

トートガナシ母の呪文を真似し日の石敢当建つふるさとの辻

日章旗県旗とならぶ鯉のぼりビジネス街をぐいぐい泳ぐ

初茄子は水神様へと亡母の声桶に紫紺の茄子浮かすなり

梅雨明けの冠岳の天辺で入道雲を持ち上げる孫

ズッシンと真夜の山里震はせて廃墟うまやの厩うまやけ座うまやつたとふ

始良市 高瀬 薫

始良市 塩満 暁洋

始良市 鶴 晴美

伊佐市 下田 竜二

いちき串木野市 上中 イクコ

いちき串木野市 松木 蘭 かつ子

鹿兒島市 今里 修

鹿兒島市 田口 涼子

鹿兒島市 石原 百合子

鹿兒島市 上村 章

鹿兒島市 恒益 節子

鹿兒島市 飯尾 和子

鹿屋市 白井 森芳

銀の笛聞きつつ育つ早苗らを守りて里の田は母となる

編み笠に顔見えざれば踊り子の手もと足もといよよ艶めく

サクサクと音たてて歩く砂浜よレモンパイのやうな思ひ出ひとつ

城攻めのごとくに竹藪迫まりくる実家はすでに篝火もなし

生れ家は築百五十年黒き柱大工の亡夫の残像の如し

「ありがとう」は使ひ切れぬ程胸にありわが生れし里^{さと}あぢさゐの里

島立ちの息子と父の親子相撲二人の意地に秋の陽がふる

いつしらず山野の消えてソーラーパネルの光の海に沈むふるさと

ふるさとのローカル線のバス停に褪せたる文字の浮く時刻表

【入選】

子のくれし大きな文字の歩数計五月の里にうぐひすの鳴く

ふるさとの子らに継がれし「山田楽」鉦や太鼓が空に鳴り合ふ

砂白き吹上浜を遠くみてふるさと羽島の浜風になつ

敬老の祝いの度に児童等の掛け呉れしレイ三本となる

霧島市 内田 京子

霧島市 川崎 興子

霧島市 横山 明美

霧島市 児玉 久

熊毛郡中種子町 中嶋 喜代子

薩摩川内市 平田 立子

日置市 坂口 勝美

南九州市 若松 富士子

南九州市 横峯 ヨキ

始良市 肥田 洋子

阿久根市 有田 イチエ

いちき串木野市 中屋 清康

いちき串木野市 橘木 重雪

竿に干すブルーゾンズ乾きにくし福島は今日梅雨に入るとう

歴史ある白銀坂しらかねさかを歩きたくふるさとの家に三夜眠りぬ

漆黒の田から湧き出す蛙の声闇を突き抜け戸を振るわせる

寝釈迦なる羽島岬をくつきりと夏至の夕日が海に入りゆく

母唄うたやまいと病とこの床の「ふるさと」に遠い御島みしまの景色が寄せる

福者なる吾はふるさとふたつもつ桃旨き郷と火山灰の降る郷

父なき子となりて二巡りの父の日よサンドイッチの酸が匂へり

老いたれば亡母に似るらしふる里の法事に集ふ人の言の葉

大声を出せば隣に筒抜けの貧しき我が家に笑い声響く

思川の鉄橋渡ればふるさとの風とことばに出会ふ帖佐駅

過疎の村なりて久しき故郷は廃校だけが凜として迎ゆ

背に負ひし弟の足も濡らしつつ水遊びせしふるさとの川

母逝きて戸籍を手繰り訪れぬまぐろの香りが我を包み込む

朝焼けの光を浴びてみづみづとリンゴの並ぶ道の駅にも

いちき串木野市 内田 ヨシ子

いちき串木野市 内屋 順子

いちき串木野市 北 洋昭

いちき串木野市 小原 俊幸

いちき串木野市 寺師 一穂

鹿児島市 外園 眞佐子

鹿児島市 山下 順子

鹿児島市 門松 弘子

鹿児島市 瀬戸山 武

鹿児島市 田中 司郎

鹿児島市 白石 瑞来

鹿児島市 上原 節子

鹿屋市 東 真由美

霧島市 有川 蓮美

何もなき終戦後の日も家族あり皆でつくりし塩甘かりし
 口述を代筆されし亡姉あねの文ふるさとのごと胸にしみるる
 幼な日に祖母の語りし伝説のお浪の池よ豊かなる青
 園児等の願ひこめたる短冊が今宵流れてゆく天の川
 苦役にて築かれしとふ小村土手ふめば響もす父祖の叫びが
 イントロの小太鼓スネアのやうな雨の音太く小さく大地を敲く
 来客は猫だけの里柿の木に登るとやおら子供のころに
 梅雨空にらつきようむしる学生ら地場産業の戦士となりて
 くるがねの船に海渡る少年は日をおひ月おひ殻を脱ぎゆく
 夏の夜さのさ踊りの熱風が一気にめくる風土記のページ
 日焼けせし赤がね色の顔ばせのみなと漁師のこころ意気見よ

霧島市 中馬 綱
 霧島市 口町 円子
 霧島市 有川 陸子
 霧島市 山口 サキ
 霧島市 濱田 キミ子
 霧島市 稲満 洋子
 熊毛郡中種子町 古市 克人
 薩摩川内市 今村 えり子
 薩摩川内市 泊 勝哉
 日置市 坂口 和世
 枕崎市 寺田 信夫

留学生の部

鳥の声起こしてくれる山の上朝日が今も目の前にある

神村学園専修学校日本語学科二年

ブツダ ムラジユ
BUDHA HEMRAJ

慕ってる恋しく思う失った届かぬ居場所届ける祈り

神村学園専修学校日本語学科二年

ハニ ウィヂヤ
HANNI WIDYA

なに見てもかぞくのことを思い出すおをふる犬がわたしをまってる

神村学園専修学校日本語学科二年

チン ディエフ ミン フン
TRINH DIEP MINH PHUONG

晋は今お酒のかおりあふれてる太行山の西で栄える

神村学園高等部二年 王 鈺瑄

おう きよくせん

応募校一覧（あいうえお順）

○始良市

始良市立西始良小学校

始良市立帖佐中学校

○出水市

出水市立出水中学校

○いちき串木野市

いちき串木野市立旭小学校

いちき串木野市立荒川小学校

いちき串木野市立冠岳小学校

いちき串木野市立羽島小学校

いちき串木野市立生福小学校

いちき串木野市立川上小学校

いちき串木野市立照島小学校

いちき串木野市立市来小学校

いちき串木野市立串木野小学校

いちき串木野市立生冠中学校

いちき串木野市立市来中学校

いちき串木野市立串木野中学校

いちき串木野市立羽島中学校

鹿児島県立串木野高等学校

鹿児島県立市来農芸高等学校

学校法人神村学園中等部

学校法人神村学園高等部

学校法人神村学園専修学校日本語学科

○指宿市

指宿市立指宿小学校

指宿市立山川小学校

指宿市立利永小学校

○鹿児島市

鹿児島市立郡山中学校

鹿児島市立吉野東中学校

鹿児島県立甲南高等学校

○鹿屋市

鹿屋市立寿北小学校

○喜界町

鹿児島県立喜界高等学校

○霧島市

霧島市立国分中学校

○薩摩川内市

薩摩川内市立里小学校

学校法人川島学園れいめい高等学校

○十島村

十島村立悪石島小学校

○日置市

日置市立和田小学校

日置市立伊作田小学校

日置市立伊集院小学校

日置市立日吉小学校

日置市立伊集院北小学校

日置市立伊作小学校

日置市立土橋中学校

萬造寺 齋（まんぞうじひとし） 明治19年(1886)羽島生れ。

明治38年(1905)18歳の時、第七高等学校に入学。与謝野晶子・寛に師事し、『明星』の歌人として「七高に萬造寺齋あり」といわれる。

明治41年(1908)21歳のとき、東京帝国大学英文科に入学。その後、与謝野寛の門下生になる。この時石川啄木、高村光太郎、北原白秋など多くの歌人・詩人と交流を行う。

東京大学在学中に『明星』が廃刊になり、森鷗外を中心として『すばる』が発刊される。

大正2年(1913)独力で『我等』『街道』を刊行。京都に拠点を置き、第二次世界大戦後、歌集『萬造寺齋選集』10巻が刊行される。

大正7年(1918)31歳のときに郷里に帰る。

昭和32年(1957)7月9日、肺病のため70歳で亡くなる。

同年11月、串木野市主催、鹿児島県後援の文学葬が母校である羽島小学校で行われる。

昭和35年(1960)3月、羽島崎神社境内に歌碑が建設された。

歌碑には作家である佐藤春夫選、新村出博士が書いた3首の歌と、友人矢野峰人による歌碑を建てたいきさつが刻んである。



羽島崎神社境内にある歌碑



萬造寺 齋 生誕の地